

第3回原村高齢者福祉計画策定委員会

議事録

日時：令和6年3月11日（月）

午後 6時半から

場所：原村地域福祉センター 多目的ホール

1 開会

- ・伊藤課長より開会あいさつ

2 会長あいさつ（小島会長）

- ・お疲れのところお集まりいただき、ありがとうございます。
- ・前回の会議での意見、パブコメでの意見を踏まえ、ご協議をお願いいたします。

3 議事

(1) 第9期原村高齢者福祉計画（案）について

（地域総合計画より資料説明、原村よりパブリックコメントについて説明）

○森委員

- ・ボランティアポイント制度について、やる気がないのを示されたと感じた。
- ・高齢者福祉のために議論しているが、若者の議論まで持ち出されてる。社会福祉協議会では、児童福祉の担当もあるのか。

○牛山委員

- ・社会福祉協議会では、学生の育成にも取り組んでいる。

○森委員

- ・社会福祉協議会は、高齢者福祉のために設けている制度であると認識している。
- ・本事業については、もう諦めた。
- ・10年前に言い出した時、フレイル問題、健康寿命問題について、ニンジンをぶら下げることで頑張れるのではないかと、制度・仕組みづくりをしてはどうかとの提案だった。高齢者福祉にたずさわる方々がどんどん離れている課題がある中で、新しい展開に期待するため、提案した。
- ・しかし、ボランティア活動が多様化しているため、制度化が難しいとの整理であれば、理解を得られていないと考えた。
- ・社会福祉協議会が、このような受け取り方をしていたことに、がっかりしている。き

わめて残念である。

- ・自身も高齢となり、お世話になる方となっている。事業を継続議論していただけるならば、そのようなことも踏まえ、高齢者福祉に特化した取り組みとしてほしい。

○事務局

- ・意見の概要について、憤慨されることに御尤もである。
- ・重層的支援体制整備事業の開始に向けて、ボランティアと一緒に支援していく必要があるとの認識で、ボランティアポイント制度の推進の課題抽出を原村から社会福祉協議会へ委託した経緯がある。
- ・原村として、議論の進捗状況も確認しながら、取り組んできた。
- ・高齢者、障がい者も含めた多様な方への支援が重層的支援であり、高齢者福祉に特化したわけではない。
- ・原村としてボランティア団体の力をいかに活用していくか模索した。しかし、想定外に、ボランティア活動のすそ野が広すぎた。これらをどのように高齢者福祉につなげていくか、議論が足りていない。作り上げていく余地はたぶんにある。
- ・「少し異なる」は誤解を生む記載である。地域力を活用して重層的推進事業を推進するためには、ボランティアポイントは有効であり、高齢者の社会参加につながるものであると考える。そのため、継続して取り組んでいきたい。

(2) 第9期計画の表紙について 【資料3】

○事務局

- ・写真について、八ヶ岳であるが原村から見た八ヶ岳ではないため、原村所有の馴染みのある写真を活用したい。

○一同

- ・八ヶ岳版2の案で進める。

(3) 第9期計画の概要版について 【資料4】

○事務局

- ・第9期の中で力を入れていきたい内容を追記したい。例えば、「地域包括支援センターを中心した内容」、「認知症の件」なども想定できる。

○田中委員

- ・重層的支援体制整備事業については、障がい者計画も関わるのか。概要版のみでは記載がない。

○事務局

- ・高齢者福祉にかかわらず、障がい者福祉、子ども子育て分野など、多様な方への支援

が関係する。

- ・障がい者福祉計画書の本体の中では、推進すると記載しているが、概要版の中には読み取れない状況で整理している。
- ・しかし、上位計画である原村地域福祉計画においても、次期計画でしっかりと盛り込み、推進していきたいと考えている。

○田中委員

- ・初めて聞く言葉であり、大変抽象的な言葉である。連携を図るという流れにつながるものが分かった。
- ・ボランティアについても、同じ考え方ではないか。
- ・誰にと対象を特化するのではなく、高齢者だけではなく、障がい者、こども、子育て世代全ての方を対象としたボランティアが多くあり、それに対してポイント制度が導入出来ればよいと思う。

○事務局

- ・原村の課題であり、高齢者福祉、障がい者福祉を中心に、これからも事業推進を頑張る中で、庁内連携で、こども担当課などとも連携し、あらゆる世代の方を支援していきたい。
- ・育てていく事業であると理解している。現在の事業を強化しつつ、連携しながら、進めていきたい。
- ・制度の説明ではなく、村として、何らかの形で連携して取り組んでいくということが分かるように工夫して概要版を作成したい。

○小島会長

- ・障がい者と高齢者が一緒の概要版であるが、高齢者計画の説明の方が多くなっているイメージである。例えば、障がい者の成果指標を掲載する方向はないか。
- ・計画の推進体制は、もっと小さくても良いのではないか。

○事務局

- ・障がい者計画の方も、高齢者の成果指標とあわせて提示していこうと事務局で議論している。均等になるように配分を考えていきたい。

○小島会長

- ・地域包括ケアシステムは高齢者に特化した内容であるが、障がい者計画に掲載がないのであれば、概要版から削除しても良いのではないか。

○事務局

- ・ご指摘いただいた通り、制度の説明よりは、どうしていくかという説明を記載する方向としたい。また、高齢者と障がい者のバランスもとりながら、作成したい。

4 その他

(1) 今後のスケジュール等について

○事務局

- ・会議の形としては、最後のご意見をいただく場である。概要版に対し、多くのご意見をいただいたが、事務局へ一任いただく形でお願いしたい。
- ・今後については、概要版については、4月配布の広報にあわせて、全戸配布を予定している。あわせて、ホームページ等でも住民にご覧いただけるよう準備する。あわせて村議会でも提示予定である。

(2) その他

○森委員

- ・計画書 P4 の原村人口の出典について、「外国人を含む」と記載がある。実際には、何人程度いるのか。村内でも見るようになった。

○事務局

- ・外国人は、令和5年で199人となっている。製造業等に従事する方もいる。

5 閉会 （森副会長）

○森委員

- ・ご苦労さまでした。皆さまとの議論を得て、ようやく村民に公開される計画となる。
- ・策定委員として、微力ながら力になったのであればうれしい。
- ・これから3年間、この計画に沿って事業が推進される。委員には、村の動きをしっかりと見守る責任があるため、引き続き、フォローしましょう。

以上